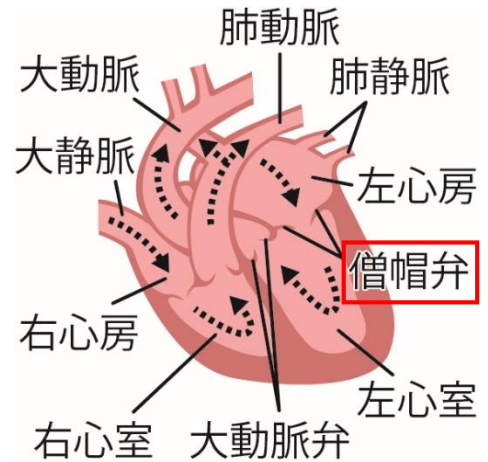


僧帽弁閉鎖不全症

「僧帽弁閉鎖不全症（そうぼうべんへいさふぜんしょう）」は、循環器疾患の中でも一番多い病気です。「僧帽弁」とは、左心房と左心室の間にある2枚の弁で、血液の逆流を防ぐ役割があります。この弁がうまく閉まらなくなって起こります。

【原因】

特にマルチーズやポメラニアンなどの小型犬に多くみられ、原因は不明ですが遺伝的要因も考えられています。キャバリア・キング・チャールズ・スパニエルは遺伝的に罹患しやすいことが知られています。老化によって僧帽弁が傷んでうまく閉まらなくなることもあります。



【症状】

初期症状としては、食欲が落ちる、疲れやすい、運動した後に乾いた咳をする、散歩を嫌がるようになったなどが挙げられます。通常5年以上かけてゆっくり進行していくため、飼い主さんが気づいた時にはかなり進行が進んでいる場合があります。僧帽弁が機能せず、心臓に血液が逆流するため、心臓が肥大し、悪化すると呼吸困難や失神といった症状がみられるようになります。急性肺水腫になって死に至る場合もあるため、注意が必要です。

【治療と予防】

血管拡張剤、利尿剤、強心剤などの薬剤投与による内科的治療が主になります。完全に治すことは難しいため、早期発見早期治療のためにも、5歳を過ぎたら検査を試みることをおすすめします。心臓病用の療法食などでの食事療法も重要です。

コロちゃんの投薬 食事

【食事】 処方食

ヒルズプリスクリプションダイエット R/D

【お薬】 利尿剤と強心剤を朝晩2回食後に

【生活上の注意】

散歩は控えめに、塩分のあるものは控えましょう。

2015/10/10 担当獣医：山田太郎

ピージェイシー動物病院

〒153-0013 東京都渋谷区恵比寿 4-7-6 K Tビル 1F

TEL : 03-5791-1122 FAX:03-5449-1022 休診日：木曜日